

コンクリート内部 配筋探査 (電磁波レーダ法 電磁誘導法)



電磁波レーダ法装置



探査例

コンクリート構造物の内部配筋を把握することは、構造物の強度を知る上では不可欠です。また、コンクリート構造物のかぶり厚さが不足している場合、中性化や塩分により鉄筋の腐食が懸念されることとなります。当社では、コンクリートの配筋状況及びかぶり深さを正確に把握するため、電磁波レーダ法及び電磁誘導法による配筋調査を実施しています。

特長

電磁波レーダ法

- 床、壁面から200 mmの深さまで、見逃さずに探査可能
- 波形の減算処理、強調処理により
深さ方向精度 ± 2 mm、横方向精度 ± 5 mmで位置を測定
(表面平坦時)
- 鉄筋のほか塩ビパイプ、空洞等が探査可能
- 測定結果をパソコンに記録し再生可能

電磁誘導法

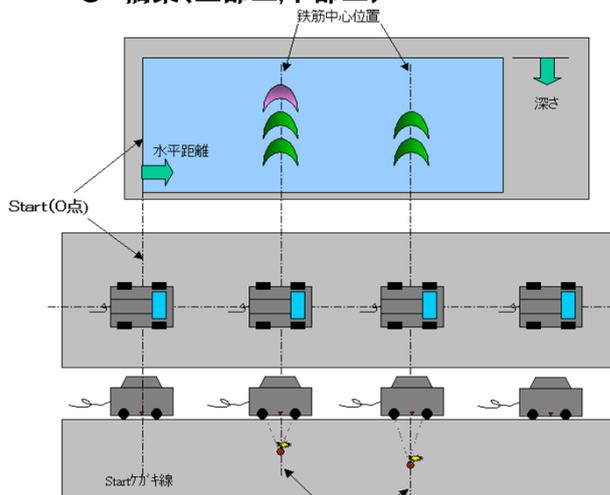
- 床、壁面から100 mmの深さまで、見逃さずに探査可能
- 測定結果をパソコンに記録し平面表示で解析実施
- 短時間にて広範囲の面積の探査が可能



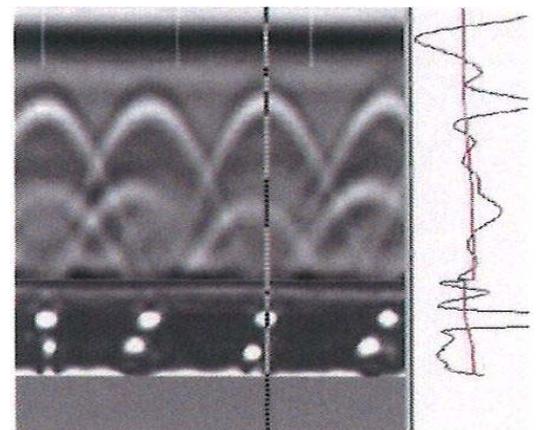
電磁誘導法装置

適用

- コンクリート構造物全般
- 橋梁(上部工,下部工)



探査イメージ図



探査データ図